

Take action for your Future

福井県立武生高等学校 SSH 研究推進部 No.10 R3.10.22(金)

1年探究進学科夏季課題研究講評会

～よりよい課題研究をめざして～

9月27日(月)5限目、本校葵講堂にて、1年探究進学科生徒全員が参加して、夏休みに取り組んだ課題研究について、講評会が開催されました。その際、仁愛大学教授西出先生を含めた本校代表の先生方3名により、最優秀論文1、優秀論文4が選ばれ、表彰されました。その後、西出先生より、提出された論文全体に対し、ご講評や、課題の進め方についての講義をいただきました。

優秀賞	片岡 姫奈	睡眠の質を高める方法
優秀賞	山田 袖楽	刑罰におけるスイスと日本の違い
優秀賞	上田 歩奈	マシュマロチャレンジ
最優秀賞	高坂 菜月	風力発電と風車のプロペラの仕組みについて
優秀賞	谷崎 怜生	甘味料の違いはデンプン餅のテクスチャーに影響を及ぼすのか



【研究の進め方】

5つの「問い」に答えることで、研究の進め方を学習する。

- 1) あなたの「問い」は何ですか？
- 2) 「問い」に答える方法は？
- 3) 「問い」の答えの仮説は？
- 4) 日程や材料の準備は実現可能？
- 5) この研究は社会にどう役立つ？



それぞれの質問への回答に対し、西出先生より、「問い」の立て方について、様々なアドバイスの言葉や研究方法・方向性についてもより具体的な手法や観点について助言をいただきました。

【指導助言者西出先生からのコメント】

《良い点》実際に現地調査を行っていること。客観的データに基づいている結論を導き出そうとしていること。身近な不思議に気づいたこと。いくつかの観点に絞って、よく調べられていること。目標は明確で、方法もシンプルであるためアイデアが出しやすいテーマを選んでいること。自分の中にある疑問について事実をもとに解明していこうとする姿勢、等。

《問題・および改善点》序論-方法-結果-考察-結論という形式にすること。実験の順番の影響が考えられていない。食品ロスのように複雑な問題が絡んでいるテーマは分析が困難。1回の実験結果のみで結論を導いていて再現性が確認されていない。文献調査は複数回実施すること。戦略の整理が必要である、等。